



USM



# 循環型社会への道



## はじめに

- 3 Less is more (少ないほど豊か)
- 4 2023-24 ハイライト

## 5 USMについて

- 6 製品

## 7 ビジョン、目標、ロードマップ

- 8 ビジョン
- 8 国連SDGs
- 8 科学に基づく目標
- 9 ロードマップ

## 10 排出量

- 11 カーボンフットプリント(炭素排出量)
- 13 排出量の削減に向けて

## 14 循環型社会

- 15 USMの循環型経済への取り組み
- 16 循環型デザイン
- 16 素材の循環性
- 17 製品寿命延長戦略

## 18 人

- 19 雇用者としてのコミットメント
- 20 地域社会との関わり

## 21 責任ある製造

- 22 スイスでの製造
- 22 天然資源の配慮ある使用
- 22 ローカル・サプライチェーン
- 23 主要素材
- 24 CO<sub>2</sub>削減鋼材
- 24 三価クロム
- 24 安全な素材のみの使用
- 25 Cradle to Cradle認証取得
- 25 GREENGUARD認証取得

- 26 用語集



## Less is more

「Less is more」(少ない方が豊かである)という言葉は、偉大な建築家Mies van der Roheミース・ファン・デル・ローエに由来し、1960年代にUSMハラー家具システムを開発したフリッツ・ハラーと、父ポール・シェアラー両名を導いた理念でした。

今日のサステナビリティにおいても、「Less is more」は重要な意味を持っています。消費と廃棄物を減らすことが環境負荷を最小限に抑える鍵であるという考えです。

ビジネスの世界では「より多く」が称賛されることがあります。しかし2024年のUSMのサステナビリティを振り返ると、私たちは「より少ないこと」を誇りに思います。

- 2021年を基準年とした場合、総CO<sub>2</sub>排出量は23%削減
- もっとも削減が難しいバリューチェーン(スコープ3)も23%削減(2030年目標25%に非常に近い)
- 自社の運用排出(スコープ1・2)は32%削減
- 24.8%の鋼材をCO<sub>2</sub>削減鋼材に切り替え

これらの進展を喜ぶ一方で、目標達成までにはまだ長い道のりがあることも理解しています。



写真解説：  
ミュンジンゲン敷地の湿地・草原・生け垣が希少な動植物の生息地になっている

私たちのビジョンは「完全に循環型の企業になること」です。製品が寿命いっぱいまで使われ、環境への影響を最小にして生産される未来を目指しています。

私たちがまず取り組んできた最優先事項は、科学的根拠に基づく目標(SBT)と削減ロードマップに従った排出量の削減です。同時に、\*\*循環型社会(サーキュラリティ)\*\*にも大きな重点を置いています。

USM製品は、何度でも使われ、用途を変え、価値と品質を保ちながら長く使えるように最適化されています。

循環型戦略の3本柱：

- サーキュラーデザイン
- 素材の循環性
- 製品寿命延長戦略

ドイツの大手企業では、4つの新オフィスでUSMハラー家具の55%を再利用して構築し、CO<sub>2</sub>もコストも削減しました。

スペインの再生可能エネルギー企業では、ゼロエネルギー建築において既存のUSM家具を再構成しました。また、フランス、日本、英国では中古製品の販売を開始し、複数の中古販売業者を支援しています。

循環型経済は「より少ないもので最大限の価値を生む」、最も優れた例のひとつです。エンジニアリングと循環性を重視する私たちにとって、これは歓迎すべき挑戦です。

**アレクサンダー・シェアラー**

USM 会長・共同オーナー

**ユディット・ストゥーパー＝シェアラー**

USM 取締役・共同オーナー

## 排出量

- SBT (Science Based Targets) イニシアチブにより、USMの排出削減目標が正式承認
- 2024年の総排出量は、基準年の2021年から23%削減
- 操業排出量(スコープ1と2)は、2021年から32%削減
- バリューチェーン排出量(スコープ3)は、2021年から23%削減
- 製品1kgあたりの排出量は引き続き減少
- すべての市場で再生可能電力に切り替え

## 循環性

- 包装材のポリスチレンを段ボールに、プラスチックストレッチフィルムをEcoFibreFilmに変更
- ドイツの大手企業の4つのオフィス移転で、USMハラーの55%を再利用・再生品
- スペインの再生可能エネルギー企業、および英国の大手グローバルコミュニケーションエージェンシーでの完全再利用構成
- フランス、日本、英国で中古品の販売を開始
- リユース、リデザインの価値を広める認知キャンペーンを展開
- ドイツの販売パートナー145社に向けた専門家委員会の知識共有イベントを実施

## 人

- スイス・ミュンジンゲンで残っていたジェンダー賃金格差を解消
- FOUNDATION USM 2023 デザイン助成金は、四肢欠損や認知症の人々を支援するプロジェクトに
- FOUNDATION USM 2024 デザイン助成金は、光害が生物多様性に与える影響を浮き彫りにするプロジェクトに
- FOUNDATION USMがフューチャーズ・ラボを立ち上げ、将来にポジティブな影響を与えるシナリオを検討
- ミラノ・デザインウィーク2023で、社会的企業THE SKATEROOMとコラボレーション

## 責任ある製造

- 2024年当社供給のうち24.8%の鋼材をCO<sub>2</sub>削減鋼に変更
- USMハラーとUSMキトスMでCradle to Cradle認証を更新

# 2023-24 ハイライト

# USMは、 モジュラー家具の設計・ 製造を行う、スイスの 家族経営企業です

弊社は1885年、スイス・ベルン郊外のミュンジンゲンにて金属加工・鋳前業として創業しました。今日に至るまで、主要生産拠点はこのミュンジンゲンにあります。1960年代、エンジニアであるポール・シェアラーは、建築家フリッツ・ハラーに新工場の設計を依頼し、そこでモジュール式のスチール構造システムが誕生しました。この共同開発を通じて、後に世界的アイコンとなるUSMハラー・モジュール家具システムが生まれました。当初は新工場とオフィスの多様なニーズに合わせて「再構成できる家具」として設計されました。

現在USMハラーは世界中で販売されており、ハンブルク、ロンドン、ミュンヘン、ニューヨーク、パリ、上海、東京にショールームを展開。さらに950以上の販売パートナーが国際的に展開しています。

USMハラーはニューヨーク近代美術館（MoMA）の永久収蔵品に選定。モダンデザインの象徴として評価されています。



1



2



3



4



- 1 1920年、USMが窓用金具の製造を開始。
- 2 1961年、シェアラーが入社し、フリッツ・ハラー氏に新工場の設計を依頼。
- 3 1965年、USMの新しいオフィスが  
スイスでオープンスペースオフィスの先駆けとなる。  
家具はすべてUSMハラーのプロトタイプで統一。
- 4 オーナーとしてUSMを率いるシェアラー家

4代目のAlexander Schärer (アレクサンダー・シェアラー) と  
ジュディス・スタバーシェアラー (Judith StuberSchärer)。



## 製品

### USMハラーシステム

1965年の誕生以来、デザインアイコンとして知られるモジュール家具システム。スチールを主材とし、機能性・耐久性・タイムレスな美しさを兼ね備えます。家庭、オフィス、公共施設など用途は幅広く、必要に応じて自由に再構成・拡張できることが大きな特徴です。



### ワールド・オブ・プランツ

組み込むことができる植物用オプション。専用パネルと給水セット付きのポットにより、室内の空気環境を向上し、常緑の風景をつくり出します。

### USMハラーテーブル

明確なデザイン言語に堅牢な材料を組み合わせたテーブルシリーズ。デスク、ダイニングテーブル、会議テーブルなど、多様な環境に適した汎用性を備えています。



### USMキトスデスク

無段階高さ調整が可能なフレキシブルデスクシステム。頑丈な構造と多彩なアクセサリで、快適で適応性の高いワークスペースを実現します。

### USMイノスボックス

小物収納のためのコンパクトな収納ボックス。USMハラー家具にぴったりフィットするサイズで、積み重ねが可能。



### USMプライバシーパネル

卓上設置・自立型のどちらにも対応。空間を仕切り、音響改善と集中環境づくりを支援します。

詳細は [www.usm.com](http://www.usm.com) をご覧ください



# ビジョン、目標、 ロードマップ

## ビジョン

USM が掲げるサステナビリティのビジョンは、完全な循環型企業となることです。私たちは、自社製品の製造を倫理的に、エネルギー・水・資源効率が高く、温室効果ガスの排出を最小限に抑える方法で行うことを目指しています。また、製品がその潜在的な寿命を通じて使われ続けることを願い、その実現のために、お客様をサポートしたいと考えています。

## 国連SDGs

国連の持続可能な開発目標 (SDGs) は、USM のサステナビリティ戦略を形作る重要な指針となっています。中心となる目標には「持続可能な消費と生産」、そのほか「ジェンダー平等」(SDG 5)、「手頃な価格でクリーンなエネルギー」(SDG 7)、「気候変動対策」(SDG 13)、「パートナーシップで目標を達成」(SDG 17) を掲げています。

## 科学に基づく目標

USM は、パリ協定の目標に沿った温室効果ガス削減を目指し、SBT (Science Based Targets) イニシアティブ によって検証された非常に野心的な削減目標を設定しています。

### USM の削減目標 (SBT 認証済み)

- ・スコープ1 & 2 (自社運用) :  
2021年基準年から 2030年までに 42% 削減
- ・スコープ3 (バリューチェーン全体) :  
同期間で 25% 削減

※ 目標範囲には「バイオエネルギー原料に由来する土地関連排出と吸収」も含まれます。



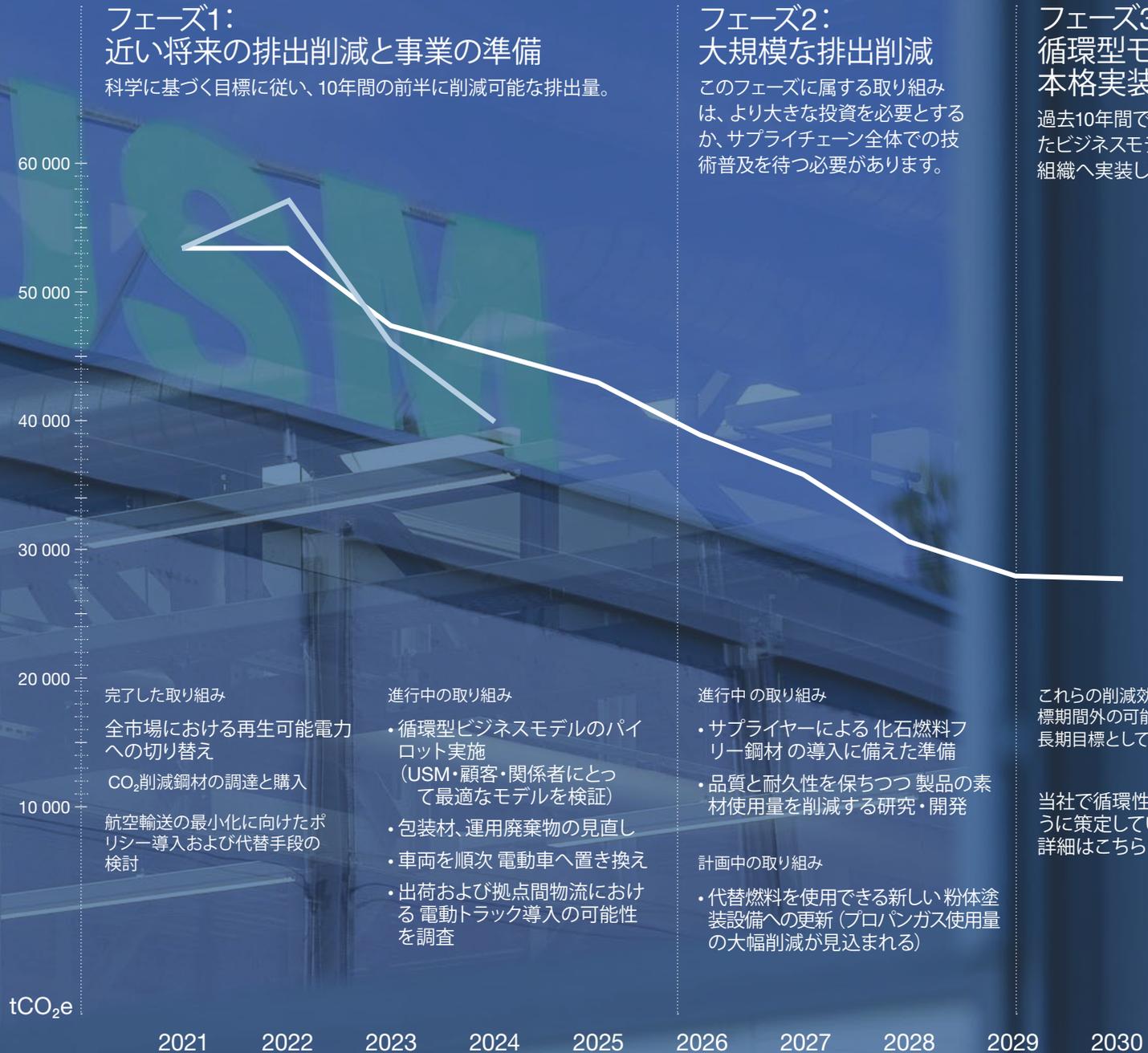
\*目標範囲には、土地由来の排出量、およびバイオエネルギー原料による除去が含まれます。



# ロードマップ

USMは、科学的根拠に基づく気候目標 (SBT) と、「完全に循環型の企業になる」という長期ビジョンに沿って、この10年間で取り組むべきプロジェクトを計画しています。

— 実際  
— 目標



## フェーズ1: 近い将来の排出削減と事業の準備

科学に基づく目標に従い、10年間の前半に削減可能な排出量。

- 完了した取り組み
- 全市場における再生可能電力への切り替え
  - CO<sub>2</sub>削減鋼材の調達と購入
  - 航空輸送の最小化に向けたポリシー導入および代替手段の検討

- 進行中の取り組み
- 循環型ビジネスモデルのパイロット実施 (USM・顧客・関係者にとって最適なモデルを検証)
  - 包装材、運用廃棄物の見直し
  - 車両を順次 電動車へ置き換え
  - 出荷および拠点間物流における 電動トラック導入の可能性を調査

## フェーズ2: 大規模な排出削減

このフェーズに属する取り組みは、より大きな投資を必要とするか、サプライチェーン全体での技術普及を待つ必要があります。

- 進行中の取り組み
- サプライヤーによる 化石燃料フリー鋼材の導入に備えた準備
  - 品質と耐久性を保ちつつ 製品の素材使用量を削減する研究・開発
- 計画中の取り組み
- 代替燃料を使用できる新しい粉体塗装設備への更新 (プロパンガス使用量の大幅削減が見込まれる)

## フェーズ3: 循環型モデルの本格実装

過去10年間で試験運用してきたビジネスモデルを大規模に組織へ実装していきます。

これらの削減効果は現在のSBT目標期間外の可能性があり、今後、長期目標として提出予定。  
当社で循環性の戦略をどのように策定しているかについて、詳細はこちらをご覧ください。

\*年次レビューの対象

主要指標  
(CO<sub>2</sub>換算トン数)

2030年の目標

科学的根拠に基づく目標 (SBT) に従い、2021年を基準として2030年までに以下を削減：

- ・ スコープ1 & 2：42%削減
- ・ スコープ3：25%削減

|                                      | 2021 (基準年) | 2024   | 変化率   |
|--------------------------------------|------------|--------|-------|
| カーボンフットプリント合計                        | 53,135     | 40,688 | -23%  |
| スコープ1*の排出量                           | 2,151      | 1,812  | -16%  |
| スコープ2*の排出量                           | 1,292      | 517    | -60%  |
| スコープ3*の排出量                           | 49,693     | 38,358 | -23%  |
| 製品1kgあたりの排出量 (tCO <sub>2</sub> e) ** | 4.32       | 4.15   | -3.9% |

# 排出量

\* スコープ1～3についての説明は、11ページを参照  
\*\* 企業カーボンフットプリントを製品の総重量 (包装材料を除く) で割った値。



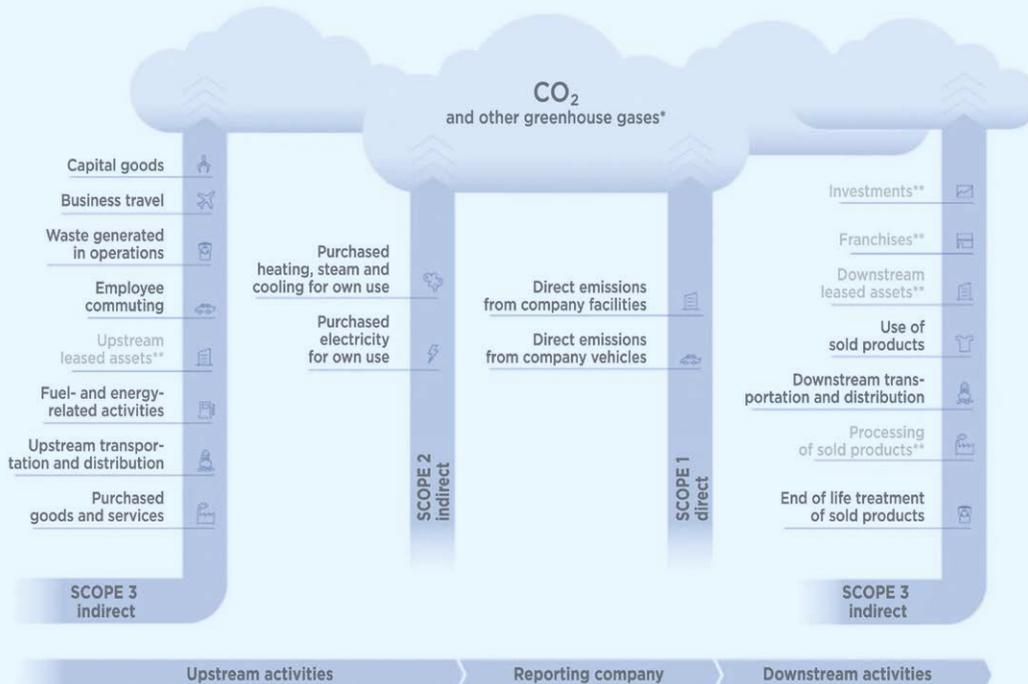
# カーボンフットプリント

USM は、最も世界的に認知されている炭素会計基準である GHG プロトコル(温室効果ガスプロトコル) に従って排出量を測定しています。中でも、自社のバリューチェーン(スコープ3)と操業排出量(スコープ1および2)を含む、最も包括的なアプローチを採用しています。

当社はClimatePartnerと協働し、本社・生産・組立・ショールーム・950以上の販売パートナーを含む、完全な年次カーボン監査を実施しています。

当社の排出量の大部分はバリューチェーンにあり(スコープ3で94.27%)、これは多くの製造業者と同様の状況です。残りは操業排出量によるものです(スコープ1で4.45%、スコープ2で1.27%)。当社の排出量の主な発生源は、生産材料(76%)と上流・下流の輸送(11%)です。

GHGプロトコル」区分別の排出量一覧表は、12ページでご覧いただけます。



\*\* 適用外

出典: www.climatepartner.com

\* 簡潔にするため、CO<sub>2</sub>またはCO<sub>2</sub>eと表記しています。USMの炭素監査は、「GHGプロトコル・コーポレート基準」に基づいています。この基準は、京都議定書で対象とされる7種類の温室効果ガス、すなわち二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)、メタン(CH<sub>4</sub>)、亜酸化窒素(N<sub>2</sub>O)、ハイドロフルオロカーボン(HFCs)、パーフルオロカーボン(PFCs)、六フッ化硫黄(SF<sub>6</sub>)、三フッ化窒素(NF<sub>3</sub>)の会計・報告を規定しています。出典: GHG Protocol

排出量 (Emissions)  
2021~2024年の排出量は  
23% 減少

USM は科学的根拠に基づく削減目標 (SBT) に沿って排出量を管理しており、2021年から2024年にかけて総排出量は23% 減少しました。これは、設定した目標よりも早いペースで削減が進んでいることを意味します。



| 排出区分                  | 2021 (基準年)           |               | 2022                 |               | 2023                 |               | 2024                 |               | 2021~2024 比較         |               |
|-----------------------|----------------------|---------------|----------------------|---------------|----------------------|---------------|----------------------|---------------|----------------------|---------------|
|                       | [tCO <sub>2</sub> e] | [%]           |
| <b>スコープ1</b>          | <b>2,150.51</b>      | <b>4.00</b>   | <b>2,362.60</b>      | <b>4.20</b>   | <b>1,939.56</b>      | <b>4.20</b>   | <b>1,812.56</b>      | <b>4.45</b>   | <b>-337.95</b>       | <b>-15.72</b> |
| 事業所からの直接排出            | 1,614.74             | 3.00          | 1,645.20             | 2.90          | 1,468.67             | 3.20          | 1,405.41             | 3.45          | -209.33              | -12.96        |
| 熱(自社生成)               | 1,557.69             | 2.90          | 1,593.60             | 2.80          | 1,458.17             | 3.20          | 1,371.93             | 3.37          | -185.76              | -11.93        |
| 冷媒漏れ                  | 57.05                | 0.10          | 51.60                | 0.10          | 10.50                | 0.00          | 33.48                | 0.08          | -23.57               | -41.31        |
| 社用車からの直接排出            | 535.77               | 1.00          | 717.50               | 1.30          | 470.89               | 1.00          | 407.15               | 1.00          | -128.62              | -24.01        |
| フリート車両                | 535.77               | 1.00          | 717.50               | 1.30          | 470.89               | 1.00          | 407.15               | 1.00          | -128.62              | -24.01        |
| <b>スコープ2</b>          | <b>1,291.65</b>      | <b>2.40</b>   | <b>881.70</b>        | <b>1.60</b>   | <b>495.61</b>        | <b>1.10</b>   | <b>517.22</b>        | <b>1.27</b>   | <b>-774.43</b>       | <b>-59.96</b> |
| 自社利用のために購入した電力*       | 636.81               | 1.20          | 604.50               | 1.10          | 0.21                 | 0.00          | 2.33                 | 0.01          | -634.49              | -99.63        |
| 電力(定置設備)              | 636.81               | 1.20          | 604.50               | 1.10          | 0.00                 | 0.00          | 0.00                 | 0.00          | -636.81              | -100.00       |
| 電力(フリート車両)            | 0.00                 | 0.00          | 0.00                 | 0.00          | 0.21                 | 0.00          | 2.33                 | 0.01          | 2.33                 | —             |
| 自社使用のために購入した熱、蒸気および冷却 | 654.83               | 1.20          | 277.20               | 0.50          | 495.40               | 1.10          | 514.89               | 1.27          | -139.94              | -21.37        |
| 熱(購入)                 | 654.75               | 1.20          | 277.10               | 0.50          | 495.40               | 1.10          | 514.89               | 1.27          | -139.86              | -21.36        |
| 購入した冷却                | 0.08                 | 0.00          | 0.10                 | 0.00          | 0.00                 | 0.00          | 0.00                 | 0.00          | -0.08                | -100.00       |
| <b>スコープ3</b>          | <b>49,692.63</b>     | <b>93.50</b>  | <b>53,182.40</b>     | <b>94.30</b>  | <b>43,779.95</b>     | <b>94.70</b>  | <b>38,358.64</b>     | <b>94.27</b>  | <b>-11,333.99</b>    | <b>-22.81</b> |
| 購入した商品およびサービス         | 41,180.79            | 77.50         | 43,821.10            | 77.70         | 35,924.46            | 77.70         | 31,453.69            | 77.30         | -9,727.10            | -23.62        |
| 生産資材および消耗品            | 40,556.20            | 76.30         | 42,868.50            | 76.00         | 35,372.07            | 76.50         | 30,894.66            | 75.93         | -9,661.54            | -23.82        |
| 包装材                   | 519.70               | 1.00          | 752.40               | 1.30          | 477.29               | 1.00          | 475.87               | 1.17          | -43.82               | -8.43         |
| 事業活動用消耗品              | —                    | —             | —                    | —             | —                    | —             | 11.41                | 0.03          | —                    | —             |
| 印刷物                   | 48.91                | 0.10          | 124.90               | 0.20          | 16.24                | 0.00          | 0.00                 | 0.00          | -48.91               | -100.00       |
| 水                     | 11.81                | 0.00          | 37.60                | 0.10          | 37.48                | 0.10          | 38.90                | 0.10          | 27.08                | 229.28        |
| 外部算定のサービス関連排出         | 29.76                | 0.10          | 23.30                | 0.00          | 18.28                | 0.00          | 27.39                | 0.07          | -2.37                | -7.97         |
| オフィス用紙                | 14.39                | 0.00          | 14.50                | 0.00          | 3.07                 | 0.00          | 5.31                 | 0.01          | -9.08                | -63.11        |
| 外部データセンター             | 0.01                 | 0.00          | 0.00                 | 0.00          | 0.01                 | 0.00          | 0.15                 | 0.00          | 0.14                 | 1,760.85      |
| 資本財                   | 1,246.60             | 2.30          | 1,820.50             | 3.20          | 1,229.38             | 2.70          | 156.11               | 0.38          | -1,090.49            | -87.48        |
| 資本財                   | 1,246.60             | 2.30          | 1,820.50             | 3.20          | 1,229.38             | 2.70          | 156.11               | 0.38          | -1,090.49            | -87.48        |
| 燃料・エネルギー関連の活動         | 517.17               | 1.00          | 471.60               | 0.80          | 544.67               | 1.20          | 466.44               | 1.15          | -50.73               | -9.81         |
| 上流の排出(熱)              | 319.53               | 0.60          | 253.50               | 0.40          | 280.61               | 0.60          | 271.06               | 0.67          | -48.47               | -15.17        |
| 上流の排出(電気)             | 133.79               | 0.30          | 148.00               | 0.30          | 149.04               | 0.30          | 94.50                | 0.23          | -39.29               | -29.37        |
| 上流の排出(フリート車両)         | 63.05                | 0.10          | 70.10                | 0.10          | 115.03               | 0.20          | 100.88               | 0.25          | 37.83                | 60.00         |
| 上流の排出(冷却)             | 0.80                 | 0.00          | 0.00                 | 0.00          | 0.00                 | 0.00          | 0.00                 | 0.00          | -0.80                | -100.00       |
| 上流の輸送および流通            | 1,620.85             | 3.10          | 3,169.90             | 5.60          | 1,428.33             | 3.10          | 1,771.91             | 4.35          | 151.06               | 9.32          |
| その他上流の輸送              | 631.04               | 1.20          | 2,474.40             | 4.40          | 1,070.58             | 2.30          | 1,189.60             | 2.92          | 558.56               | 88.51         |
| インバウンド物流              | 590.58               | 1.10          | 695.50               | 1.20          | 357.75               | 0.80          | 582.31               | 1.43          | -8.28                | -1.40         |
| 上流の保管                 | 399.23               | 0.80          | 0.00                 | 0.00          | 0.00                 | 0.00          | 0.00                 | 0.00          | -399.23              | -100.00       |
| 事業活動で発生した廃棄物          | 69.82                | 0.10          | 50.70                | 0.10          | 424.93               | 0.90          | 320.48               | 0.79          | 250.66               | 359.01        |
| 事業系廃棄物                | 65.58                | 0.10          | 48.90                | 0.10          | 368.17               | 0.80          | 270.61               | 0.67          | 205.03               | 312.65        |
| 処理施設への輸送              | 4.24                 | 0.00          | 1.80                 | 0.00          | 56.76                | 0.10          | 49.87                | 0.12          | 45.63                | 1,076.09      |
| 出張                    | 67.53                | 0.10          | 243.20               | 0.40          | 367.91               | 0.80          | 373.84               | 0.92          | 306.32               | 453.63        |
| 航空                    | 58.50                | 0.10          | 232.00               | 0.40          | 355.80               | 0.80          | 364.94               | 0.90          | 306.43               | 523.79        |
| 鉄道                    | 7.08                 | 0.00          | 7.80                 | 0.00          | 5.91                 | 0.00          | 5.98                 | 0.01          | -1.10                | -15.54        |
| レンタカーおよび個人所有車両        | 1.94                 | 0.00          | 3.40                 | 0.00          | 6.20                 | 0.00          | 2.93                 | 0.01          | 0.99                 | 50.73         |
| 従業員の通勤                | 886.84               | 1.70          | 849.30               | 1.50          | 856.66               | 1.90          | 684.20               | 1.68          | -202.64              | -22.85        |
| 従業員の通勤                | 797.70               | 1.50          | 803.70               | 1.40          | 783.42               | 1.70          | 605.37               | 1.49          | -192.33              | -24.11        |
| ホームオフィス               | 89.14                | 0.20          | 45.50                | 0.10          | 73.24                | 0.20          | 78.83                | 0.19          | -10.31               | -11.57        |
| 下流の輸送および流通            | 3,695.93             | 7.00          | 2,315.50             | 4.10          | 2,475.06             | 5.40          | 2,675.65             | 6.58          | -1,020.27            | -27.61        |
| アウトバウンド物流             | 3,695.93             | 7.00          | 1,916.30             | 3.40          | 2,133.11             | 4.60          | 2,241.87             | 5.51          | -1,454.06            | -39.34        |
| 下流の保管                 | 0.00                 | 0.00          | 399.20               | 0.70          | 341.95               | 0.70          | 433.79               | 1.07          | 433.79               | —             |
| 販売した製品の使用             | 208.12               | 0.40          | 206.60               | 0.40          | 180.65               | 0.40          | 158.60               | 0.39          | -49.52               | -23.80        |
| 電力                    | 208.12               | 0.40          | 206.60               | 0.40          | 180.65               | 0.40          | 158.60               | 0.39          | -49.52               | -23.80        |
| 販売した製品の廃棄処理           | 198.98               | 0.40          | 234.10               | 0.40          | 347.90               | 0.80          | 297.72               | 0.73          | 98.74                | 49.62         |
| 製品の廃棄                 | 188.38               | 0.40          | 221.70               | 0.40          | 334.92               | 0.70          | 106.19               | 0.26          | -82.19               | -43.63        |
| 廃棄製品の処理施設への輸送         | 10.60                | 0.00          | 12.40                | 0.00          | 12.97                | 0.00          | 191.53               | 0.47          | 180.93               | 1,707.10      |
| <b>総排出量</b>           | <b>53,134.78*</b>    | <b>100.00</b> | <b>56,426.70*</b>    | <b>100.00</b> | <b>46,215.12*</b>    | <b>100.00</b> | <b>40,688.42*</b>    | <b>100.00</b> | <b>-12,446.37</b>    | <b>-23.42</b> |

\*この数値には、「GHGプロトコル」に基づくスイスにおける生物起源排出量1,032kg CO<sub>2</sub>eは含まれていません。出典: www.climatepartner.com



## 排出量の削減

USMは、パリ協定に沿った温室効果ガス削減を実現するため科学的根拠に基づく目標 (ScienceBased Targets) を選択し、現在、その目標以上のペースで削減を進めています。2021年から2024年の間に総排出量は23%少なくなりました。

科学に基づく目標の基準年である2021年と比較して、2024年には操業排出量 (スコープ1および2) を32%削減しました。スコープ1およびスコープ2における2030年目標は、42%削減です。バリューチェーン排出量 (スコープ3) は23%減少しました。スコープ3における2030年目標は、25%削減です。

削減の主な要因

- CO<sub>2</sub>削減鋼材の導入 (2024年、使用した鋼材の24.8%がCO<sub>2</sub>削減鋼、目標の20%を上回る)
- 2021年と2022年にパンデミック後の在庫積み増しを行った後、鋼材の購入量が減少
- 再生可能電力への切り替えを完了 (「グリーンエネルギー属性」関連の証明書による)
- 生産におけるプロパンガスの使用量削減
- 航空貨物輸送の削減
- 多くの製品の包装材をポリスチレンから段ボールに切り替え

現時点では約束した目標よりも早く排出量を削減しているとはいえ、目標達成の最終段階に到達する志を実現するのは簡単なことではなさそうです。特に、スコープ3の目標は、サプライチェーンにおける脱炭素化、化石燃料フリー鋼の入手可否、および商用物流の電動化拡大に大きく依存しています。

したがって、スコープ3におけるさらなる削減計画には、社内外のプロジェクトを組み合わせることで遅延リスクを軽減することが関係します。

- 2025年以降、包装材における再生材の使用率を増加させる
- 2027年までに物流分野で電気トラックを導入する (ドイツにおける関連インフラの不足を示す試験結果を受け、当初の2026年から変更)
- 2027年以降、特定のモジュラー部品に必要な鋼材の使用量を削減する
- 鉄鋼業界が化石燃料フリー鋼を大規模に供給可能となった際に備え、事業準備を整える

操業排出量 (スコープ1および2) を

さらに削減する計画には以下が含まれます

- 2027年までに、ドイツのオフィス施設における太陽光パネルの利用を拡大する
- 2029年までにフリート車両を電化する
- 新たな粉体塗装設備の導入により、プロパンガスの使用量をさらに削減する。これはまだ計画段階であり、詳細は決まり次第、発表されます。

科学に基づく目標の達成に向けた進捗状況を、年次サステナビリティレポートで引き続き共有します。

当社の科学的根拠に基づく目標は、意欲的かつ達成可能なもので、サプライチェーンおよび事業活動における排出量削減に向けた取り組みを導いています。

# 循環性

## 2030年の目標

USM は、以下の目標を掲げ、事業全体で完全な循環型モデルを実現することを目指しています。

- ・全事業領域で循環性を最大化
- ・バージン原材料の使用を削減
- ・より責任ある消費行動を促進

## 主要指標

循環型デザイン原則の遵守\*：

100%：長寿命のために設計された製品\*\*

100%：再利用可能性を念頭に設計された製品\*\*

99%：修理可能性を備えた製品\*\*

2種類の製品ラインがCradle to Cradle認証取得

主力鋼材の25%がリサイクル素材由来\*\*\*

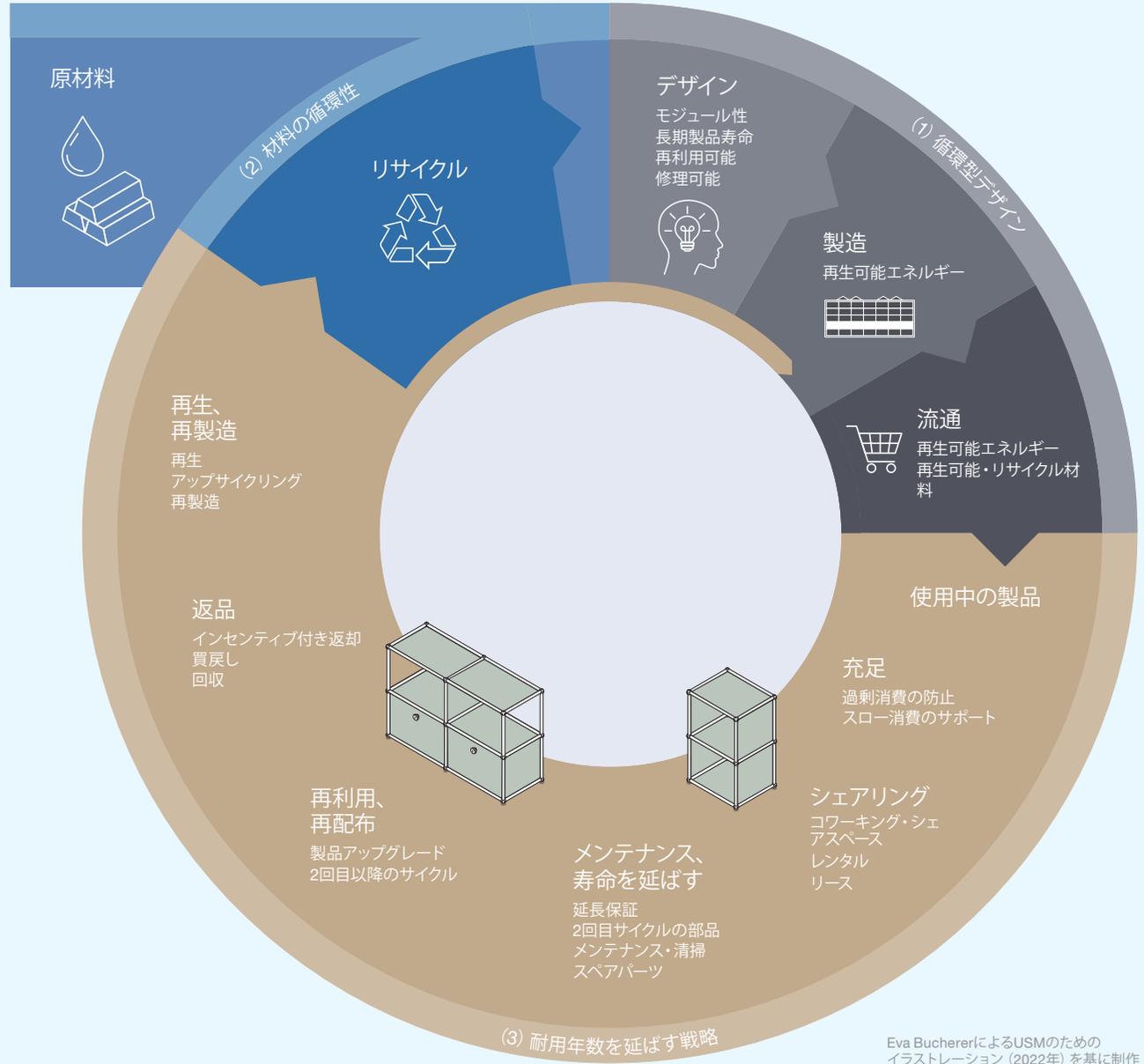
\* Ellen MacArthur Foundationによる  
\*\* 製品収益に基づく計算  
\*\*\* 最大サプライヤーからの年間平均



# 私たちの循環型経済への取り組み

USM が長期ビジョンとして掲げる「完全な循環型企業」を達成するために、以下の3つの主要な柱に基づいて取り組みを進めています。

(1) 循環型デザイン、(2) 素材の循環性、(3) 製品寿命延長戦略





## 循環型デザイン

USM ハラーは、用途に合わせて組み替え・拡張・縮小できる「モジュール家具の先駆け」として誕生しました。この柔軟性は、長寿命と循環性を支える中核です。また、何十年も使用できる耐久性を備えた素材と構造、そして色褪せしない限定カラーと、世代を超えて使えるデザイン。さらに最新のモジュールは、数十年前のUSM ハラーパーツとも互換があります。これにより、古い家具も「新しい用途」に蘇らせることができます。

USMハラーの技術的構造——象徴的なボールジョイントでチューブを連結する方法は、ネジ、接着剤、磁石といった一般的な方法を超える強度を生み出します。当社では可能な限り電子式システムよりも機械式システムを優先し、構造物の耐用性を高めています。また、機能試験を実施しており、例えば引き出しでは50,000回の開閉試験を行います。

## 材料の循環性

循環型経済の主要な目的は、材料を可能な限り長く使用し続けることで、バージン原材料への依存を減らすことです。

当社の主要サプライヤーから調達する鋼材には、年間平均で25%のリサイクル材（プレコンシューマ廃棄物24.3%、ポストコンシューマ廃棄物0.7%）が含まれています\*。この数値の改善は、当社の管理範囲外であり、変動が激しく需要の高い高品質スクラップ鋼の入手可能性に依存します。

包装材においても、私たちは大幅な改善を進めています。2023年、USMハラー家具の角部保護材に使用していたポリスチレンを再生段ボールに変更しました。2024年、機能試験と品質試験を経て、プラスチック製ストレッチフィルムをEcoFibreFilm（エコファイバーフィルム）に変更しました。粉末塗装表面およびテーブル角の保護については、適切に製品を保護するための要件がより複雑なため、ポリスチレンの代わりに段ボールや紙繊維を用いる試験を継続します。USM拠点間の輸送には、再利用可能な木枠梱包を可能な限り使用しています。

2023年、Cradle to Cradle Instituteは、USMハラーを「Material Reutilisation（材料再利用）」部門でゴールド賞に選出しました。これは「永久に循環可能で価値を維持する材料で製品を設計することで、『廃棄物』という概念を排除する\*見込みを評価したものです。当社のCradle to Cradle認証についての詳細は、[25ページ](#)をご覧ください。

\* <https://c2ccertified.org/certified-products/usm-haller>

## 耐用年数を延ばす戦略

製品の寿命を再利用、再生、再製造によって延ばすことは、循環型経済を大規模に実現するうえで最も重要な要素の一つです。USM製品は、耐久性、柔軟性（モジュール性）、そして時代を超えた普遍的な美しさ備え、製品ライフサイクルを何度も繰り返すことに最適につくりになっています。2023～24年、この分野における当社の主要プロジェクトには以下のようなものがあります。

- ドイツの大手国際企業が4拠点のオフィス移転を実施するにあたり、当社はUSMハラー家具の再構成プロジェクトを担当。既存のUSMハラー部品を回収・検査・洗浄・分類し、新オフィス向けに最適化されたスペースプランを提供。再利用可能なパーツを最大限活用しました。その結果、新オフィスの家具構成は「新規45%、再利用・再構成55%」を実現。大幅なコスト削減と二酸化炭素排出量の削減を同時に達成。これは、同社がバリューチェーン全体のフットプリント削減（スコープ3）を推進する上で、意義のある成果となりました。
- スペインの再生エネルギー企業のゼロエネルギーオフィス。使用歴8年のUSMハラー家具のみを再利用し、綿密なプランニングと再構成によって生まれ変わったサステナブルなワークプレイス。モジュラーシステムを柔軟に適応させることで、新たなワークフローや休憩エリア、拡張した業務に対応する多様な空間を構築しました。
- ロンドンのグローバル通信会社は、オフィス移転に伴いUSMハラー家具をすべて再配置。プランターや追加のカラーパネルの設置、また構造の変更により、既存のUSMハラー家具は新フロアへの移転に適応。10t CO<sub>2</sub>e削減に成功。
- 米国ミッドセンチュリー建築の象徴であるWolfhouseにおいて、USMハラー家具を再利用し、中古USMハラー部品のみで構成されたキッチンを創出。
- フランス、日本、英国における中古品および展示品販売。

当社はまた、業界のパートナーと緊密に連携し、循環性に関する知識と経験をお互いに交換しています。2023年には、ドイツで販売パートナー145社と共に、循環性の分野を率いる専門家によるディスカッションフォーラムを開催しました。これにより循環性を基にした啓発キャンペーンを展開する運びとなり、USM家具の用途変更と再設計の価値工場を促進するキャンペーンに、ドイツの販売パートナーの25%が参加しました。



すべてUSMハラー家具のみで再利用、プランニング、構成したスペインの再生エネルギー企業のゼロエネルギーオフィス。

2030年の目標

良い影響を与える雇用主ブランドであり、  
責任感のある企業市民であること

主な数値

平均勤続年数：  
11.2年

社員の国籍数：  
42か国

男女比  
男性78% / 女性22%



## 雇用主としての私たちの コミットメント

私たちは、USMの従業員が平均して11年もの長い期間にわたり活躍していることを、大きな誇りとしています。当社の職場文化は、製品の品質・デザイン・汎用性に対する揺るぎない誇りと価値観の共有によって支えられています。

賃金の平等は、私たちにとって極めて重要なテーマです。ミュンジンゲンでは、2024年に実施した包括的な男女賃金格差分析を経て、男女間の賃金格差を解消しました。さらに、ドイツ・ビュールのオフィスでは複合的なデータ収集を開始し、ライブツィヒの物流拠点では外部専門機関と連携して賃金格差是正に向けた取り組みを進めています。加えて、公正な賃金支払いを確かなものにするためのツールも導入しました。

将来を見据えた人材確保と、管理職層におけるアンバランスな構造を是正するため、2024年には主要ポジションを対象とした戦略的採用イニシアチブを導入しました。

USMは、公正な雇用条件の提供と従業員の安全確保に、これからも真摯に取り組んでいきます。当社の従業員行動規範は、国際労働機関（ILO）の基本原則、国連「ビジネスと人権に関する指導原則」、そして国際人権章典に基づき策定されています。





## 地域社会との関わり

当社は、依存症から回復した人々が意義ある仕事に復帰できるよう支援する、Südhang Arbeitsintegration & Handels AGとのパートナーシップを継続しています。ベルンにある同クリニックは公式USM中古品パートナーとして、治療とトレーニングを兼ねたワークショップを運営し、中古のUSM製品を高品質な中古家具やアートインスタレーションへと再生しています。

また当社は系列の非営利団体FOUNDATION USMを通じて、デザイン・建築、芸術・文化、音楽、スポーツ、科学、教育など、多様な分野の個人や団体を継続的にサポートしています。特に、学生による革新的なプロジェクトを表彰する年次 USMデザイン助成金コンペティションを通じて、次世代の創造性と社会貢献を後押ししています。

2023年度のコンペティションでは、インテリア建築を学ぶ学生たちに対し、「多様な能力を持つすべての人に向けた、アクセシブルなキャラバン（移動型住宅）の内装デザイン」という課題が提示されました。

Ilena Escher（イレーナ・エッシャー）の《StepByStep》は、上肢切断者のニーズに寄り添う優れたデザインとして最優秀賞を受賞しました。

Amarine Dondey（アマリン・ドンディ）の《Dementia Get Away》は、アルツハイマー病患者向けに設計されたキャラバン内装として特別賞を受賞しています。

2024年デザイン助成金は、国連の持続可能な開発目標（SDGs）を参照し、「良い目的のために、SDGsを実現しよう」をテーマにしました。ビジュアルコミュニケーション学科の学生、Rebecca Alfandary（レベッカ・アルファンダリー）、Emma Grosu（エマ・グロス）、Phinn SallinMason（フィン・サリン＝メイソン）は、光害が夜行性昆虫の生存を脅かし生物多様性に影響を与えることを広く知らしめることを目的とした「アンスラサイト」プロジェクトで表彰されました。

ミラノ・デザインウィーク2023では、社会派の起業家THE SKATEROOM とスイス人アーティストClaudia Comte（クラウディア・コント）と提携しました。コントはUSMのモジュラー家具を用いたビスポークコレクションと、スケートボードによるアートエディションを制作し、独自のクリエイティブな世界観を表現しました。

このコレクションの収益は、THE SKATEROOMによる社会貢献活動の一環として、ヨルダンの若年層を対象としたスケートパークの開発やトレーニング、教育プログラムの支援に充てられました。



südhang



FOUNDATION  
USM



USM × THE SKATEROOM



# 責任ある 製造

## 2030年の目標

環境へのインパクトと廃棄を最小限に抑えた事業活動と同時に、従業員のために最高基準の安全性と快適性を維持

## 主要指標

CO<sub>2</sub>削減鋼：  
24.8%

三価クロム：  
98%

スイスのサプライヤー：  
70%

ヨーロッパ（スイス以外）  
のサプライヤー：  
25%

主な生産拠点における再  
生可能エネルギー\*：  
25%

4つの製品ラインがUL  
GREENGUARD認証取得

\* 太陽光パネルとバイオマス



## スイスでの製造

責任ある製造に対する当社のアプローチは、家族経営のビジネスを開始したスイス・ミュンシンゲンを本拠地とし続けるという決定から始まりました。USMの全コンポーネントを製造しているこの工場では、作業環境におけるリスク低減と最適なエネルギー効率を実現するため、最高水準の安全基準と設備を維持しています。生産工程の多くは機械によって行われますが、その運用を支えているのは、熟練したスタッフの精緻な技術と監督です。機械と人間の技能を最適に組み合わせることで、高品質と安全性を両立した製造体制を実現しています。

## 天然資源の配慮ある使用

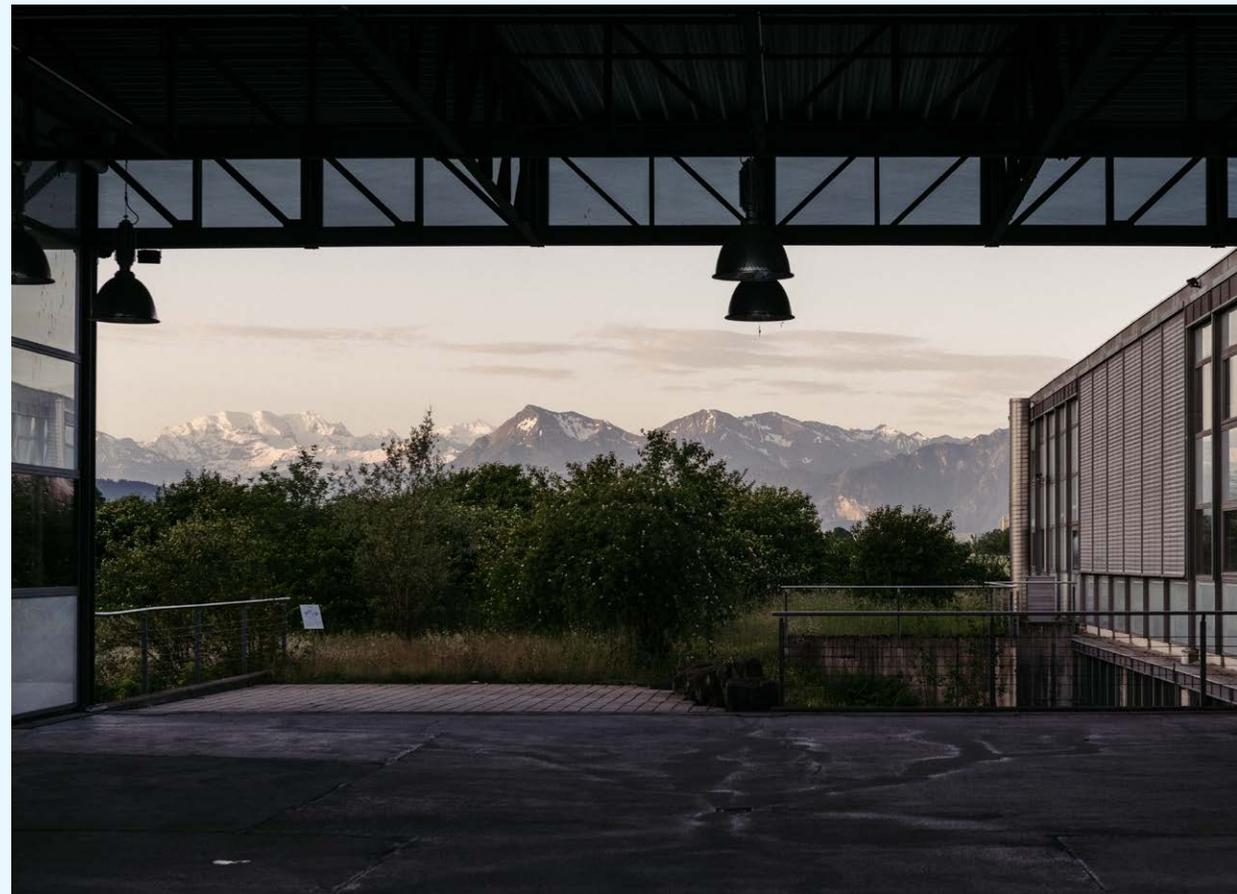
工場の稼働には、バイオマスと3939m<sup>2</sup>の太陽光パネルを組み合わせた再生可能エネルギーを25%使用しています。バイオマスの利用により化石燃料への依存度が低下しており、粉体塗装工場の熱回収システムでエネルギー需要を可能な限り低く抑えています。

また、可能な限り、自然の水循環を利用します。冷却用、バスルーム設備、および粉体塗装工場用の水は、製造拠点内の雨水貯留池から供給される地下水を利用しています。廃水の処理は厳格な規制に従っており、外部機関による定期的な監視の対象になっています。また、当社で地下水のPH値を継続的に監視しています。産業用車両の洗浄設備には油分離器があり、廃水が確実に清浄であるようにしています。

当社拠点の生物多様性を促進する目的で、地域の動植物のために7000m<sup>2</sup>を草原地帯として保全しています。ここは、うさぎ、鹿、あひる、草へび、それに多種多様な鳥類や昆虫の生息地となっています。この取り組みにより、2007年に地域の自然保護活動への貢献が認めれ、Stiftung Natur & Wirtschaft (自然経済財団) から認定を授与されました。

## ローカル・サプライチェーン

当社サプライヤーの70%はスイス、25%はその他のヨーロッパ諸国から調達しています。サプライチェーンを可能な限り地域に密着させるということは、輸送を最小限に抑え、原材料の品質を管理し、高い透明性を維持できることを意味します。USMサプライヤーの行動規範は、国際労働機関 (ILO) の基本原則、国連のビジネスと人権に関する指導原則、および国際人権章典に則り策定されています。また、すべてのサプライヤーには、これらのガイドラインを遵守することが求められています。



## 中核となる材料

USM製品の製造に使用する素材は、品質、耐久性、モジュール性という当社の主要なデザイン原則に基づき、慎重に選定されています。家具の主材料はスチール（鋼）で、表面や細部の部品にはその他の材料を使用しています（表を参照）。

| 主材料     | 主な用途   | リサイクル含有率                               | リサイクル可能性 | 材料の割合（スタンダードモデルの重量による） |            |        |
|---------|--|--|----------|------------------------|------------|--------|
|         |  |  |          | USMハラー                 | USMハラーテーブル | USMキトス |
| スチール    | 耐久性、安定性、<br>ビジュアルアイデンティティ                      | 25% 主要な<br>サプライヤーから                    | 100%     | 97%                    | 56%        | 57%    |
| 木材      | 寸法安定性、<br>再生材料                                 | 0%                                     | 0%       |                        | 35%        | 27%    |
| プラスチック類 | 安定性/重量比、<br>可動部品の<br>絶縁性・平滑性、<br>追加コーティング不要    | — 部分的に使用<br>しているが、現時点<br>では<br>数値化が不可能 | 100%     | 1%                     | 8%         | 10%    |
| ガラス     | ビジュアルアイデンティティ、<br>優れたリサイクル特性                   | 0%                                     | 100%     |                        |            |        |
| アルミニウム  | 安定性/重量比、<br>耐久性、精密な<br>フィッティング/確実なケーシング        | 0%                                     | 100%     |                        | 1%         | 5%     |
| 複合材料    | 単一材料が機能要件を<br>満たさない場合にのみ<br>使用（例：<br>木製テーブルトップ | 0%                                     | 0%       | 0.2%                   |            | 0.5%   |
| 真鍮      | 省資源<br>加工/仕上げ                                  | 0%                                     | 100%     | 1%                     | 1.2%       |        |
| 亜鉛      | 表面品質   | 0%                                     | 100%     | 0.4%                   |            |        |

## CO<sub>2</sub>削減鋼

当社では、2024年にスチール供給の24.8%をCO<sub>2</sub>削減鋼に切り換えました。これは当社の20%目標を上回る成果であり、生産材料における排出量削減に大きく貢献しています。

## 三価クロム

耐食性、耐傷性、耐摩耗性を最大限に高めるため、USM家具の構造部品のほとんどはクロムメッキ処理されています。当社が使用するクロムの98%以上は三価クロム（クロムIII）であり、これは環境中や多くの食品に天然に存在する微量元素です。

## 安全な材料のみ

USM製品には、レッドリストの材料、EU REACH規則（化学物質の登録、評価、認可および制限）で規制される物質、Cradle to Cradle Certified Products Program Restricted Substances List（クレードル・トゥ・クレードル認証製品プログラム制限物質リスト）、またはLabour Code（フランス労働法典）第R231-51条で危険と分類される物質は、一切含まれていません。



## Cradle to Cradle認証取得 GREENGUARD認証取得

USM/ハラーおよびUSMキツスMは、2018年よりCradle to Cradle Products Innovation Institute (クレードル・トゥ・クレードル製品イノベーション機構)の認証を取得しています。この認証で評価されるのは、企業の「製品の設計と製造において、材料の健全性、製品の循環性、大気浄化と気候保護、水と土壌の管理、社会的公平性の原則を適用する取り組みです。この規範は、設計者、製造業者、およびサプライヤーに対し、製品が何からできているか、またどのように作るを継続的に改善するための枠組みを提供するものです。Cradle to Cradle認証は、循環型経済のために作られた製品や材料の信頼できるマークです。」\*

可能な限り、USM Group Marketingが利用する印刷会社など、Cradle to Cradle認証を取得したサプライヤーの利用を目指しています。

USM/ハラー家具システム、USM/ハラーテーブル、USMキツスは、すべて揮発性有機化合物 (VOC) の低排出量についてUL GREENGUARD (グリーンガード) 認証を取得しています。USM/ハラーソフトパネルは、さらに低いVOC排出量限界値を定めた高水準のUL GREENGUARD Gold認証規格で認証を取得しています。Gold認証製品はまた、California Department of Public Health (カリフォルニア州公衆衛生局、CDPH) の「Standard Method for the Testing and Evaluation of Volatile Organic Chemical Emissions from Indoor Sources Using Environmental Chambers (環境チャンバーを用いた室内発生源からの揮発性有機化学物質排出量の試験および評価に関する標準方法、通称カリフォルニア州セクション01350)」も遵守する必要があります。

厳密な科学試験を経て厳格な排出基準を満たしたこの認証は、当社製品がより健全な室内空気質に貢献することを認めるものです。



\* [https://api.c2ccertified.org/assets/c2c-certified-circularity-standard\\_v4.1\\_final\\_011525.pdf](https://api.c2ccertified.org/assets/c2c-certified-circularity-standard_v4.1_final_011525.pdf)



# 用語集

|  |   |
|--|---|
| <p><b>二酸化炭素、二酸化炭素排出、CO<sub>2</sub>、CO<sub>2</sub>相当、排出、排出量、温室効果ガス (GHG) 排出</b></p> | <p>このサステナビリティレポートにおいて、これらの用語はいずれも京都議定書で対象とされる6種類の温室効果ガス、すなわち二酸化炭素 (CO<sub>2</sub>)、メタン (CH<sub>4</sub>)、亜酸化窒素 (N<sub>2</sub>O)、ハイドロフルオロカーボン (HFCs)、パーフルオロカーボン (PFCS)、六フッ化硫黄 (SF<sub>6</sub>) のCO<sub>2</sub>換算値を指します。これはGHG Protocol Corporate Standard (GHGプロトコル企業基準) に基づき算出されるものです。<sup>1</sup></p> |
| <p><b>循環型ビジネスモデル、循環型企業</b></p>   | <p>一般的に、「循環型ビジネスモデル」とは、特定の方法で循環型経済の原則を実施するビジネスモデルを指します。「循環型企業」は、循環型ビジネスモデルに従います。</p>  |
| <p><b>循環型デザイン原則</b></p>  | <p>本サステナビリティレポートにおける「循環型デザイン原則」とは、循環型経済の以下3原則を実現するデザイン (設計) を指します。(A) 設計段階から上流工程で廃棄物と汚染を排除する、(b) 材料と製品を可能な限り長く、最高の価値で使い続けられるよう設計し循環させる、(c) 地域の生物多様性、大気、水質を改善する設計により自然を再生する。<sup>2</sup></p>   |
| <p><b>循環型経済</b></p>  | <p>「循環型経済」は、製品や材料、またそれらを構成する資源を可能な限り経済圏内に留めることで、理想的には廃棄物を発生させず温室効果ガスの排出を防止する、あるいは少なくとも廃棄物と温室効果ガスの排出を削減するという考え方に基いています。<sup>3</sup></p>  |
| <p><b>循環型経済原則</b></p>  | <p>「循環型経済原則」とは、一般に、ある経済が循環型経済になるために従う原則のことです。こうした原則には、製品や材料が再利用、再製造、リサイクル、または回復が可能となるよう設計されることが関係しています。<sup>4</sup>さらに進んだ循環型経済の原則は、特に共有、リース、修理することです。<sup>5</sup>こうした原則により、製品のライフサイクルは延長され、製品が寿命に達した場合、その材料は可能な限り経済圏内にとどめられることになります。<sup>6</sup></p>  |

|                                 |  |
|---------------------------------|--|
| <p><b>循環型材料</b></p>             | <p>「循環型材料」とは、その内在価値を保持したまま循環させることが可能な材料のことで、その方法は、有限の材料 (経済に関連する時間スケール (地質学的時間スケールではない) において再生不可能な材料) を経済圏内に留め環境に排出しないこと、生分解性材料を安全に大地へ還すこと、または再生可能材料 (枯渇速度と同等以上の速度で継続的に補充される材料) を使用することのいずれかによります。<sup>7</sup></p> |
| <p><b>循環性</b></p>               | <p>このサステナビリティレポートにおいて、「循環性」という用語は、USMの循環型経済原則の実施と強化を通じた、USMの循環型ビジネスモデルの開発と適用を指します。</p>   |
| <p><b>CO<sub>2</sub>削減鋼</b></p> | <p>このサステナビリティレポートにおいて、「CO<sub>2</sub>削減鋼」という用語は、「従来の生産方法と比較して排出量が大幅に低減される技術と手法を用いて製造された鋼 (スチール)」を指します。<sup>8</sup></p>   |
| <p><b>エネルギー効率</b></p>           | <p>「エネルギー効率」という用語は、一般に、性能、サービス、物品またはエネルギーの出力と、エネルギーの入力との比率を指します。<sup>9</sup></p>   |
| <p><b>ポストコンシューマ・リサイクル</b></p>   | <p>「ポストコンシューマ・リサイクル」の内容は、一般に、エンドユーザーによる製品の使用後にリサイクルされた材料を指します。<sup>10</sup></p>  |
| <p><b>プレコンシューマ・リサイクル</b></p>    | <p>「プレコンシューマ・リサイクル」の内容は、一般的に、生産工程中に廃棄物処理の流れからリサイクルされた材料を指します。<sup>11</sup></p>   |
| <p><b>リサイクル可能性</b></p>          | <p>「リサイクル可能性」という用語は、一般的に、材料が本来の目的を果たした後も有用な物理的または化学的特性を保持しており、このため再利用または再製造によって新たな製品に生まれ変わることができる特性を指します。<sup>12</sup></p>   |
| <p><b>リサイクル</b></p>             | <p>「リサイクル」とは、一般に、回復工程により、廃棄物または製品を、元の目的のためかその他の目的のためかを問わず、材料、製品または物質に再処理することを意味します。<sup>13</sup>「リサイクルされた」製品または材料とは、そのような回復工程を経た製品または材料を指します。</p>  |

|                          |   |
|--------------------------|---|
| <p><b>再生的に成長した材料</b></p> | <p>「再生的に成長した材料」という用語は、一般に、自然に再成長する能力を持つ材料、例えば樹木などを指します。</p>   |
| <p><b>修理可能</b></p>       | <p>「修理可能」という用語は、一般に、損傷または欠陥がある場合に製品を修理できることを指します。</p>   |
| <p><b>責任ある消費</b></p>     | <p>「責任ある消費」とは、一般に、自分が消費する製品について熟考した判断を下す姿勢を指します。<sup>14</sup>この意思決定プロセスには、社会的、環境的、倫理的影響の考慮が含まれます。<sup>15</sup></p>  |
| <p><b>責任ある製造</b></p>     | <p>「責任ある製造」とは、一般的に、製品やサービスを生産するプロセスで、環境的、社会的、倫理的影響を考慮に入れるよう徹底することです。<sup>16</sup></p>   |
| <p><b>再利用可能</b></p>      | <p>「再利用性」という用語は、一般に、製品または部品それ自体を再び使用できる可能性を指します。<sup>17</sup></p>   |
| <p><b>科学に基づく目標</b></p>   | <p>「科学に基づく目標」とは、「科学に基づく目標設定」イニシアチブが提供する枠組みを指します。これは「気候変動の最悪の影響を防ぐために、企業や金融機関が温室効果ガス (GHG) 排出量をどれだけ、どれほどの速さで削減する必要があるかを示す」ものです。<sup>18</sup></p>   |
| <p><b>サステナビリティ</b></p>   | <p>「サステナビリティ」(持続可能性) という用語は、一般に、現在の必要を満たしながら、将来の世代が自らの必要を満たす能力を損なわないようにすること意味します。<sup>19</sup>『企業のサステナビリティ』という用語は、企業の価値体系と、原則に基づく事業運営アプローチから始まります。これは、少なくとも人権、労働、環境、腐敗防止の分野における基本的な責任を果たす方法で事業を行うことを意味します。<sup>20</sup></p> |
| <p><b>持続可能な生産と消費</b></p> | <p>「持続可能な生産と消費」という用語は、一般に、経済、環境保護、社会の間で利害関係のバランスを取り、現在および将来の世代の生活の質と幸福を守る方法で行う物品の生産と消費を指します。<sup>21</sup></p>   |

<sup>1</sup> <https://ghgprotocol.org/sites/default/files/standards/ghg-protocol-revised.pdf>

<sup>2</sup> <https://www.ellenmacarthurfoundation.org/introduction-to-circular-design/we-need-to-radically-rethink-how-we-design>

<sup>3</sup> [https://www.un.org/sites/un2.un.org/files/circular\\_economy\\_14\\_march.pdf](https://www.un.org/sites/un2.un.org/files/circular_economy_14_march.pdf)

<sup>4</sup> [https://www.un.org/sites/un2.un.org/files/circular\\_economy\\_14\\_march.pdf](https://www.un.org/sites/un2.un.org/files/circular_economy_14_march.pdf)

<sup>5</sup> <https://www.europarl.europa.eu/news/en/headlines/economy/20151201STO05603/circular-economy-definition-importance-and-benefits>

<sup>6</sup> <https://www.europarl.europa.eu/news/en/headlines/economy/20151201STO05603/circular-economy-definition-importance-and-benefits>

<sup>7</sup> <https://www.ellenmacarthurfoundation.org/circulate-products-and-materials>

<sup>8</sup> <https://worldsteel.org/media-centre/blog/2021/blog-low-carbon-steel-meaning>

<sup>9</sup> Directive 2023/1791/EU Art. 2(8)

<sup>10</sup> Circular Plastic Alliance (CPA) 3ページによる「post-consumer material」の定義を参照

<sup>11</sup> Circular Plastic Alliance (CPA) 3ページによる「pre-consumer material」の定義を参照

<sup>12</sup> <https://www.eea.europa.eu/help/glossary/gemet-environmental-thesaurus/recyclability>

<sup>13</sup> 参照: Directive 2008/98/EC Art. 3(17)

<sup>14</sup> [https://www.un.org/sustainabledevelopment/wp-content/uploads/2023/09/Goal-12\\_Fast-Facts.pdf](https://www.un.org/sustainabledevelopment/wp-content/uploads/2023/09/Goal-12_Fast-Facts.pdf)

<sup>15</sup> こちらも参照してください: [https://www.un.org/sustainabledevelopment/wp-content/uploads/2023/09/Goal-12\\_Fast-Facts.pdf](https://www.un.org/sustainabledevelopment/wp-content/uploads/2023/09/Goal-12_Fast-Facts.pdf)

<sup>16</sup> こちらも参照してください: [https://www.un.org/sustainabledevelopment/wp-content/uploads/2023/09/Goal-12\\_Fast-Facts.pdf](https://www.un.org/sustainabledevelopment/wp-content/uploads/2023/09/Goal-12_Fast-Facts.pdf)

<sup>17</sup> Directive 2005/64/EC Art. 4(13)

<sup>18</sup> <https://sciencebasedtargets.org/about-us>

<sup>19</sup> <http://www.un-documents.net/our-common-future.pdf> 参照: part I.3.2.7

<sup>20</sup> <https://unglobalcompact.org/what-is-gc/mission/principles#:~:text=Corporate%20sustainability%20starts%20with%20a,%2C%20environment%20and%20anti%2Dcorruption>

<sup>21</sup> こちらも参照してください: <https://social.desa.un.org/2030agenda-sdgs>



## スイス

USM U. Schärer Söhne AG  
Thunstrasse 55, 3110 Münsingen  
電話 +41 31 720 72 72, info.ch@usm.com

## ドイツ

USM U. Schärer Söhne GmbH  
Siemensstrasse 4a, 77815 Bühl  
電話 +49 7223 80 94 0, info.de@usm.com

## フランス

USM U. Schaerer Fils SA, Paris Showroom  
23, rue de Bourgogne, 75007 Paris  
電話 +33 1 53 59 30 37, info.fr@usm.com

## イギリス

USM U. Schaerer Sons Ltd., London Showroom  
Marylebone Square, 12 Cramer Street  
London W1U 4EA  
電話 +44 207 183 3470, info.uk@usm.com

## アメリカ

USM U. Schaerer Sons Inc., New York Showroom  
28 - 30 Greene Street, New York, NY 10013  
電話 +1 212 371 1230, info.us@usm.com

## 日本

USM U. シェアラー・ソーンズ株式会社  
本社/ショールーム  
〒100-0005東京都千代田区丸の内2-1-1  
明治安田生命ビル1・2F  
電話03-6635-9420, info.jp@usm.com

## 中国

USM Trading (Shanghai) Co. Ltd., Shanghai Showroom  
Building C, 2F, Room 201, No. 12 Yongyuan Road  
Jing'an District, Shanghai 200040  
電話 +86 189 3977 2732, info.cn@usm.com

その他の国については  
お問い合わせください。

usm.com

# Thank you

アイデアをお聞かせください。

メール: [sustainability@usm.com](mailto:sustainability@usm.com)

## レポート協力者

USMのサステナビリティ担当者: Ian Weddell, Thomas Dienes博士  
炭素監査: ClimatePartner  
サステナビリティに関するコンサルティング、執筆、修正: Susanne Conway, Sirkel Consulting  
通信およびデザイン指導: USM Group Marketing  
レイアウトおよびグラフィック: P'INCコ.コミュニケーションデザイン

本レポートはデジタル形式のみでの発行となります。  
2025年10月